

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)彩都東部地区 新拠点建設	階数	地上7階
建設地	大阪府茨木市彩都東部地区	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,125 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2018年11月1日
敷地面積	72,436 m ²	作成者	清水建設
建築面積	31,654 m ²	確認日	2018年12月10日
延床面積	132,069 m ²	確認者	清水建設 中野



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
周辺の住宅地に配慮した配置計画、外観デザイン、植栽計画を行い、地域に親しまれる工場を目指して計画した。音環境シミュレーションを行い騒音が起きにくい機械室、設備機器の配置計画を行った。建設中からエネルギー、副産物の削減を図り、建設行為から環境に優しい計画を行う。		二段造成となっている敷地において建物の断面計画を工夫し、排出土量を削減する計画とした。それに伴う排気ガスの削減、エネルギー消費の抑制を図る。建設時は仮設材を再利用するなど、建設副産物の発生を削減する。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
主にF☆☆☆☆の建材を使用し、室内環境に化学汚染物質が少ない計画とした。換気量は建築基準法の1.4倍を確保し建物の利用者が快適に利用できる計画とした。	執務エリアは十分な広さを確保し従業員が快適に働ける空間を計画した。福利厚生エリアを中心にコンセプトを考え内装計画を行った。	建物は北東の住宅地に配慮し、建物をセットバックさせることで圧迫感を低減する計画とした。北側の高い地盤には低層建物を配置し、全体ボリュームを抑えた計画とした。住宅地側を緑化し周囲の景観との調和を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEI=0.67でBELS☆☆☆☆の基準をクリアする数値とした。	OPD=0の冷媒を使用し、地球環境に配慮した。	十分な駐車・駐輪スペースを確保した。敷地内は車両を一方通行とし、入口と出口を明確に分けることで渋滞が起りにくい敷地利用とした。既存工場の利用実態を踏まえた廃棄物スペースを確保し、排出時の利便性も考慮した配置計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0120

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)彩都東部地区 新拠点建設プロジェクト						
	建設地	大阪府茨木市彩都東部地区						
	用途/区分	工場 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						4	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.6	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				3.7	4	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.3	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							